

フレイルに対する鍼灸治療 —鍼灸院でのフレイル状況とフレイルの因子に対する鍼灸治療の影響—

佐竹 美香^{1) 3)}, 武藤 由香子²⁾, 江川 雅人³⁾, 福田 晋平³⁾, 廣 正基³⁾

¹⁾ ハッピー・治療院, ²⁾ 自由が丘ムトゥ鍼灸院, ³⁾ 鍼灸学部はり・きゅう学講座

【背景】フレイル (Frailty) とは, 高齢期における虚弱化により要介護などに陥りやすい状態を示し, 本邦では 2014 年に提唱された。【目的】①鍼灸院におけるフレイルの状況, ②フレイルの因子: サルコペニアと低栄養への鍼灸治療の影響を検討した。【方法】①対象は本学附属鍼灸院に来院した 65 歳以上の要支援・要介護未認定者とし, 厚生労働省作成の基本チェックリストでフレイル判定を行い, 7 領域 (手段的生活活動, 社会的生活活動, 身体機能, 栄養状態, 口腔機能, 認知機能, 抑うつ気分) の点数を算出した。②サルコペニアと低栄養の指標: 筋力 (握力), 歩行機能 (3m-TUGT), バランス機能 (FRT), 舌圧値に対する単回の鍼灸治療後の変化を測定した。【結果】① 53 名のうちフレイル 14 名 (26.4%), プレフレイル 18 名 (34.0%) であった。7 領域の点数は, 身体機能, 口腔機能, 抑うつ気分でフレイル群と正常群に差がある傾向を認めた。② 48 名を集積。各指標とも虚弱な群において鍼灸治療後に向上する症例の割合が高かった。【考察】地域高齢者における既報告値と比較して, 本報告では各年代ともフレイル率が高く, 身体・口腔機能の低下, 抑うつの発現が要因と考えられた。虚弱な高齢者における鍼灸治療後の機能向上より, フレイルから健康回帰への効果が考察された。【結語】鍼灸院に来院する高齢者にはフレイルが多く, 虚弱な状態において鍼灸治療の機能向上作用が期待される。

胸郭出口症候群に対する鍼治療 —前向き症例集積研究—

今枝 美和

鍼灸学部はり・きゅう学講座

【目的】胸郭出口症候群と診断された上肢症状 (疼痛・異常感覚) を有する患者を対象に腕神経叢刺鍼の臨床効果を検討した。

【方法】10 名 11 肢 (男性 2 名, 女性 8 名, 37 ± 15 歳) を対象として, 上肢痛 5 肢, 上肢異常感覚 7 肢について観察した。介入: 症状側の腕神経叢への鍼治療 (雀啄術, 1Hz, 20sec, 1 回/週, 計 5 回) を施行した。評価: 症状の程度について, 初回および最終治療 (5 回目) の前後に Visual Analogue Scale (VAS, mm) を用いて記録した。

【結果】上肢痛の VAS は, 初回治療前 69.2 ± 22.7 , 初回治療直後 55.2 ± 27.2 となり, 最終治療前 35.8 ± 13.6 , 最終治療直後 14.6 ± 15.6 となった。変化量に関して, 初回は 14.0 ± 21.7 であったのに対し, 5 回目は 21.2 ± 10.4 であった。上肢異常感覚の VAS は, 初回治療前 87.6 ± 12.2 , 初回治療直後 73.7 ± 29.0 , 最終治療前 55.3 ± 28.3 , 最終治療直後 40.6 ± 36.0 であった。変化量については, 初回 13.9 ± 21.2 , 5 回目 14.7 ± 16.2 であった。

【考察】腕神経叢への刺鍼は胸郭出口症候群による上肢症状に対して, 治療期間中においては有効性が期待できる治療方法であることが示唆された。また, 治療の継続により, 症状の漸減と直後効果の増大が得られる可能性を考えた。